

平成20年度市民公開シンポジウム

「大腸がん1の早期診断と治療」

- 早く見つけて早く治すためには -

日本放射線技術学会主催

大腸がんは老人保健医療におけるがん検診の第3計画として平成4年に検診制度が制定されました。厚生労働省の研究班の推計によれば、がんに罹患する割合は、胃がんが継続して減少傾向を示し、肺がんも平衡状態を示しているなか、大腸がんは明らかに増加傾向にあります。この傾向は男性に顕著ではありますが、大腸がんに関しては女性も増加しています。このため、一般市民が大腸がんについての正確な知識を得るとともに、社会復帰のための具体的な方法や予防に関する知識を得る機会を設けることは重要であると考え、企画致しました。

今回のシンポジウムでは、最初に基調講演として腹部外科医師に「大腸がん」という病気をわかり易く解説して頂いた後に、最新の治療法を紹介して頂きます。これを受けて、最新の画像診断法について紹介します。

まず、最新の検査法として、CT画像をベースに大腸のみを選択的に3次元表示した「CTコロノスコーピー」という診断方法の特徴を紹介します。これは大腸の内視鏡検査のように腸管内部を描出できる方法です。続いて、最近話題になっているPET-CTを用いると、大腸がんはどのように診断できるのか。その特徴とピットホールについて解説します。

さらに、大腸がんの手術を受けた場合を想定して、ストーマ(人工肛門)ケアの具体的な紹介と日常生活における注意点を紹介した後に、予防医学的見地から、食生活や生活習慣を改善するための具体的な方法についてお話しします。

最後に会場から質疑応答やご意見を伺う時間を設けますので、日頃の疑問を解消して頂けるよう、多数のご参加をよろしくお願ひします。

記

期 日：平成20年12月7日(日)13:30～16:00

会 場：メルパルク京都

司 会：錦成郎，木村英理

1. 基調講演：大腸がんの診断と治療(50分)

京都大学医学部附属病院 長山聡 先生

2. シンポジウム

(a)CT検査の最先端 - コロノスコーピー - (15分)

大阪医科大学附属病院 吉川秀司 先生

(b)PET-CTで大腸がんを診る(15分)

京都大学医学部附属病院 中本裕士 先生

(c)術後のストマケア(15分)

大阪府立大学 田中緒華 先生

(d)大腸がんにならないための食生活指導(15分)

大阪大学医学部附属病院 安井洋子 先生

3. 総合質疑・応答：30分

以上